

志在  
子孫  
傳  
八

ヲ多  
641  
8



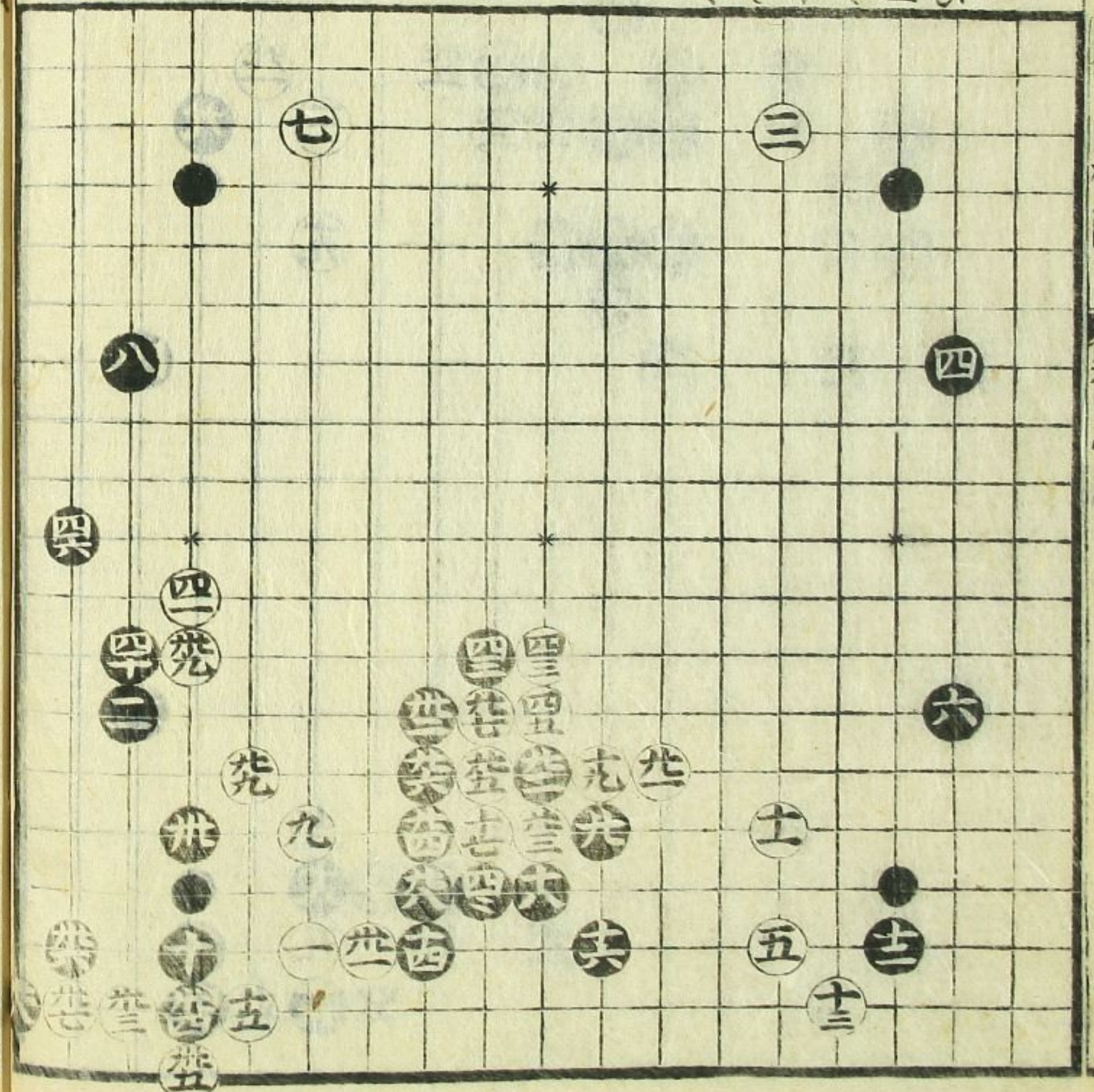






四十六ノ目

此石立白中を勢ひ  
よふかして位とよ  
中は黒ハ悟外は  
白は理小法く并  
りとも在物と  
し里

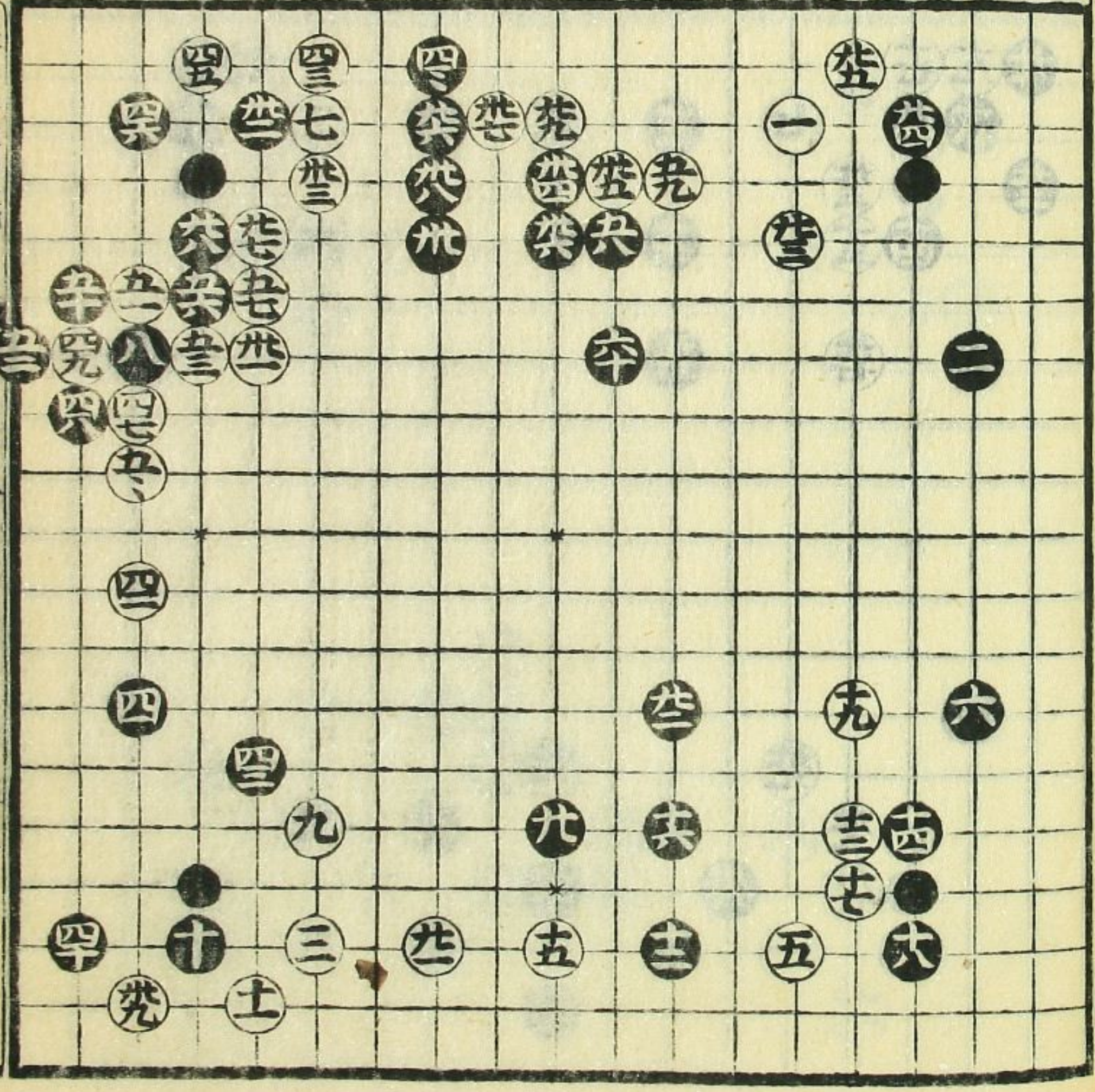


其石立白中

六十七ノ目

此石立白中を  
勢ひよふかして  
位とよ中は黒ハ  
悟外は白は理小  
法く并りとも在  
物とし里

黒五十四粘

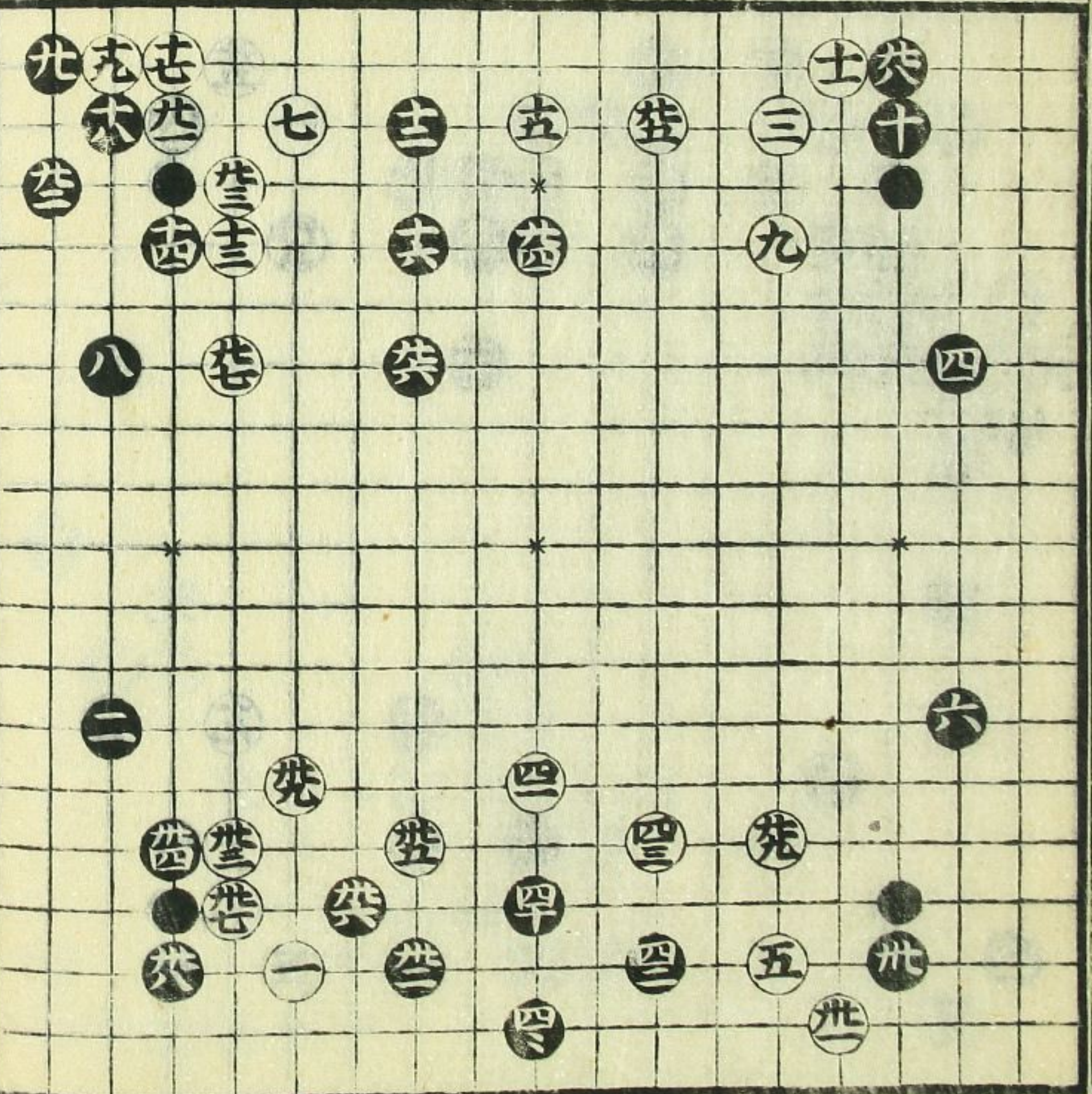


其石立白中



四十四と

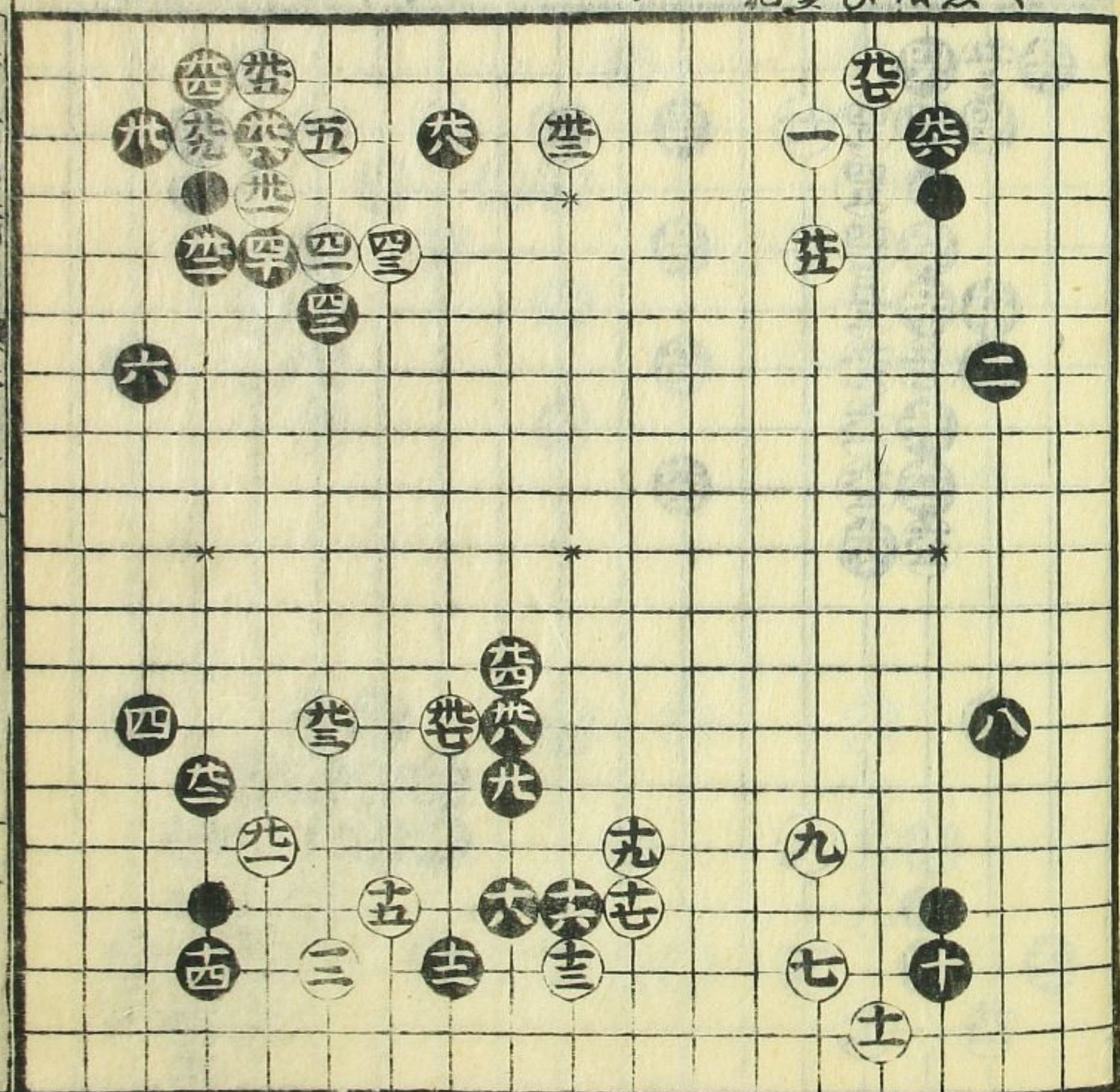
此石立向とては  
白の方を論る所  
黒のかけ板を論す  
り



四十三と

此石立白却とては  
黒の方を論る所  
白のかけ板を論す  
り

此九却と



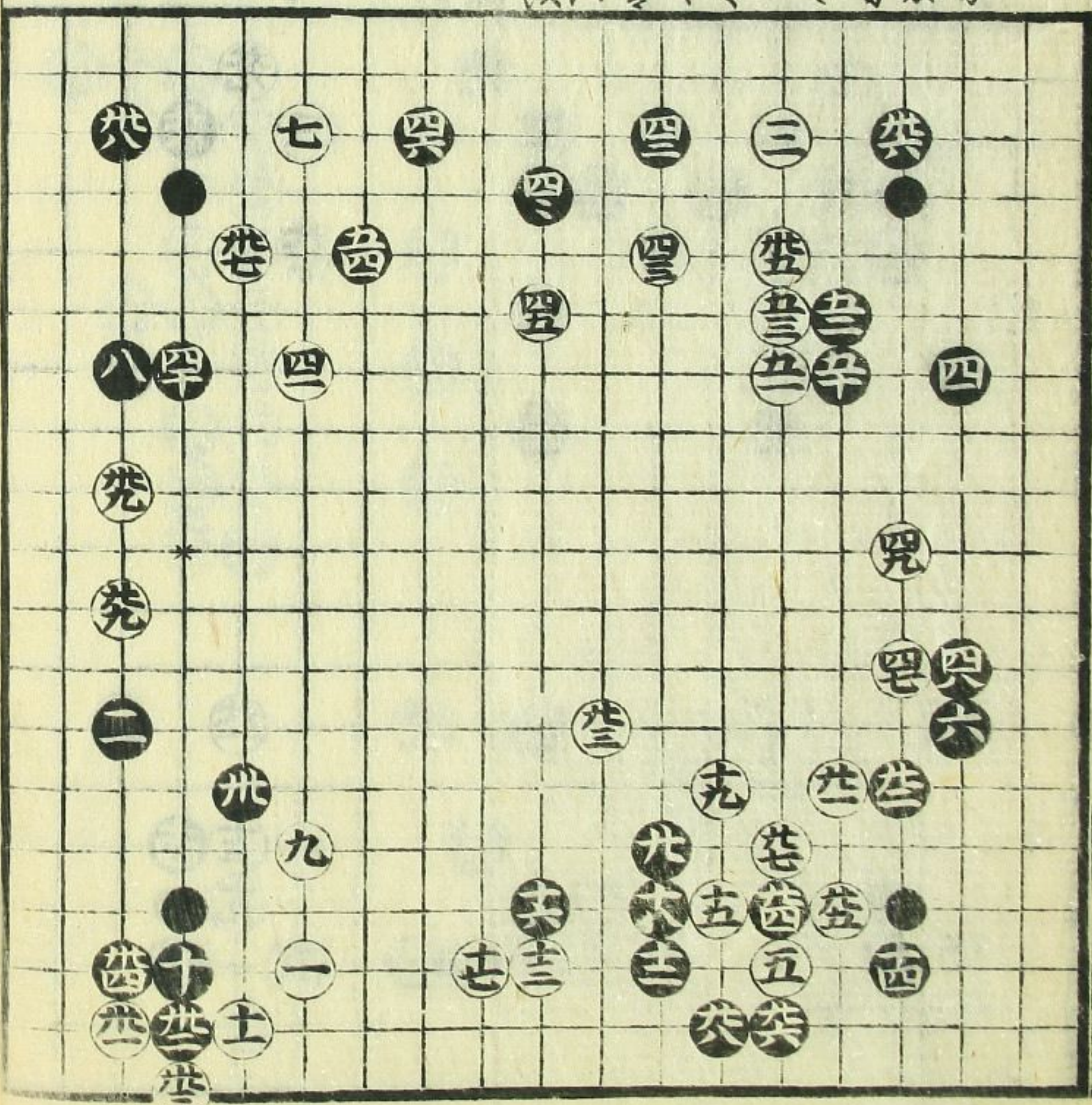






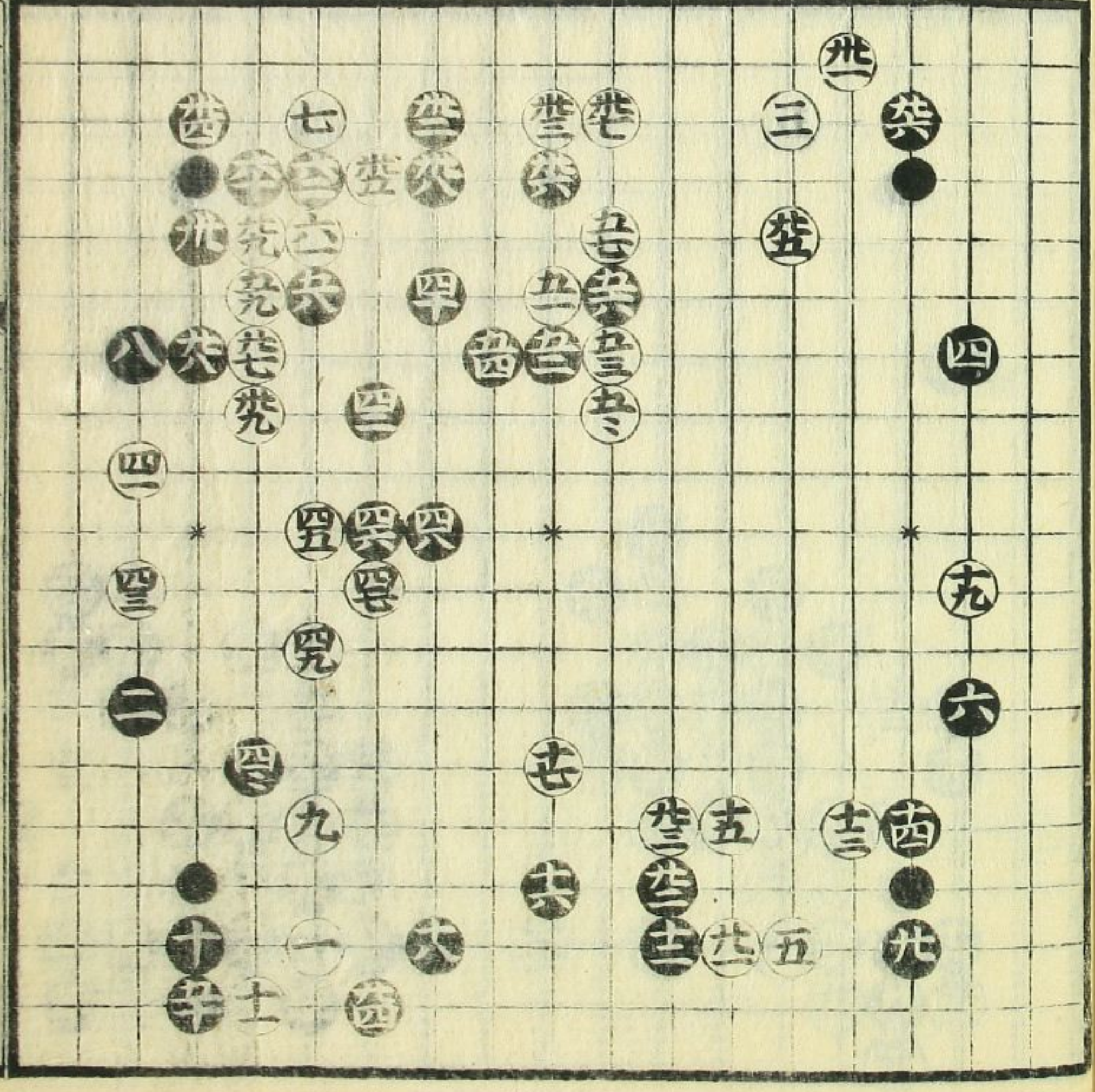
五十四の勢

此の五白中の勢  
ひとすくはるる黒  
の方勝はるる先有  
取らうと丸さんと  
巧黒もむなり  
白も勢ひに終る  
むかく形のみとく  
我をを強くす時と  
白中に勢ひ白取  
中あふはるる先有  
一取中の勢ひと備  
す事なりとく



六十二の勢

此の五黒地は厚  
さあうとく三九の  
むりく四二の黒  
色のむりく中乃  
勢ひ終る事  
を初る



表の五十四の勢

表の六十二の勢

五

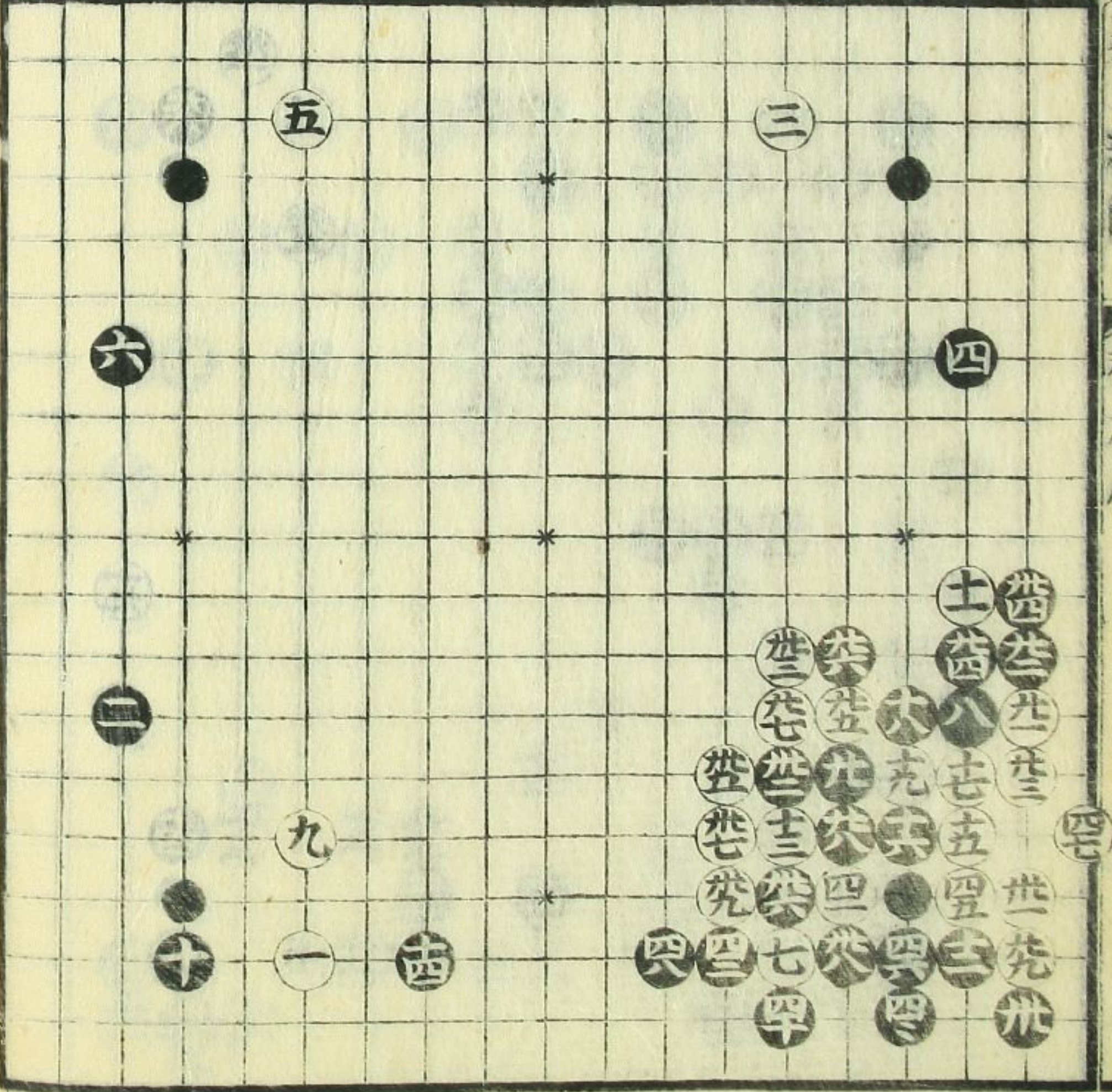


四十八すく

此五十五の折返の附横五の符をく法く折附ハ折のこくと折ナリと白大小悪一三七粘の附黒下の七五出折ハ白も四三折あり

四十二粘

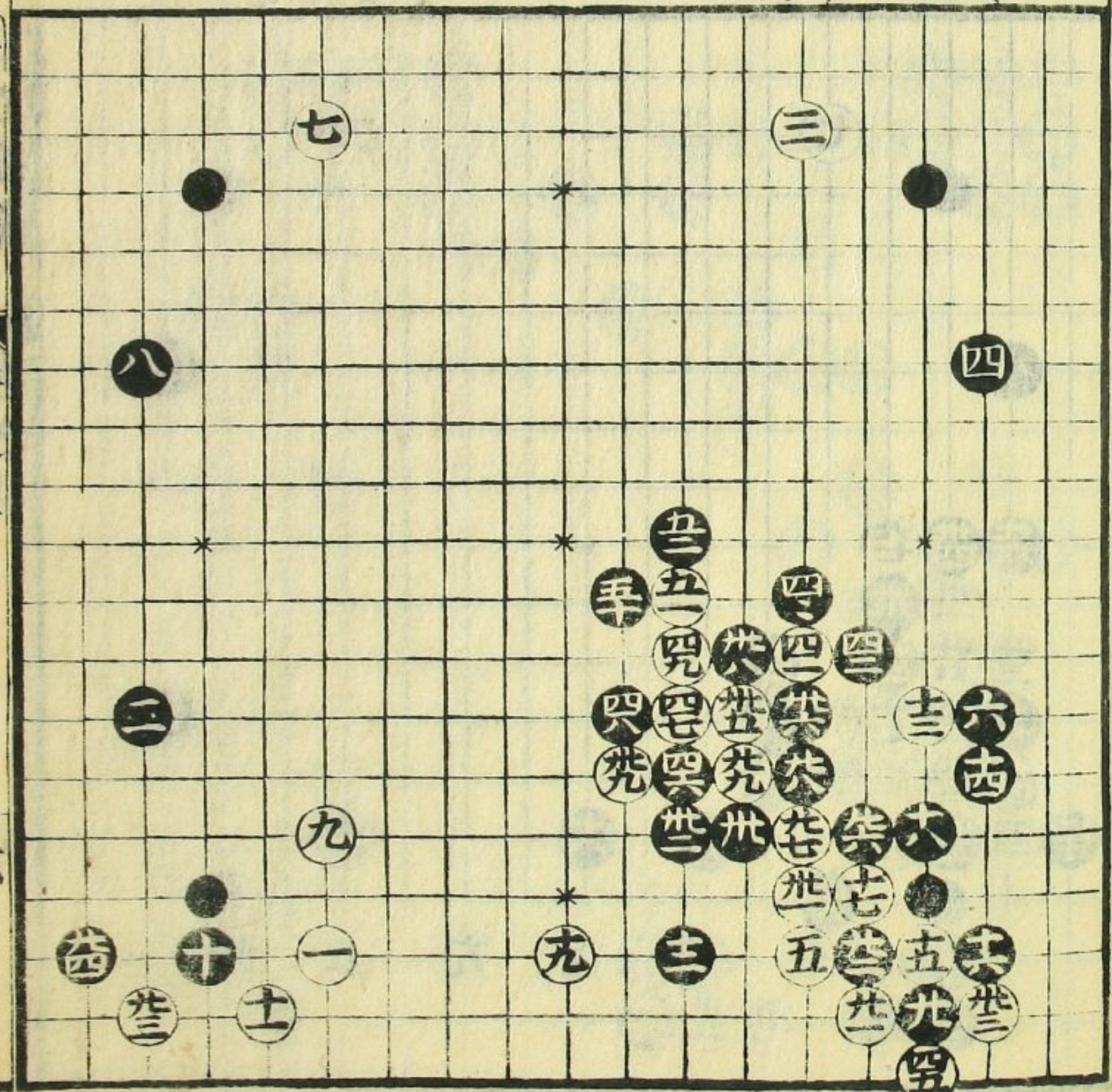
Handwritten notes in the top margin of the right page, including the number 42 and some illegible characters.



五十二すく

此五十二の折返の附横五の符をく法く折附ハ折のこくと折ナリと白大小悪一三七粘の附黒下の七五出折ハ白も四三折あり

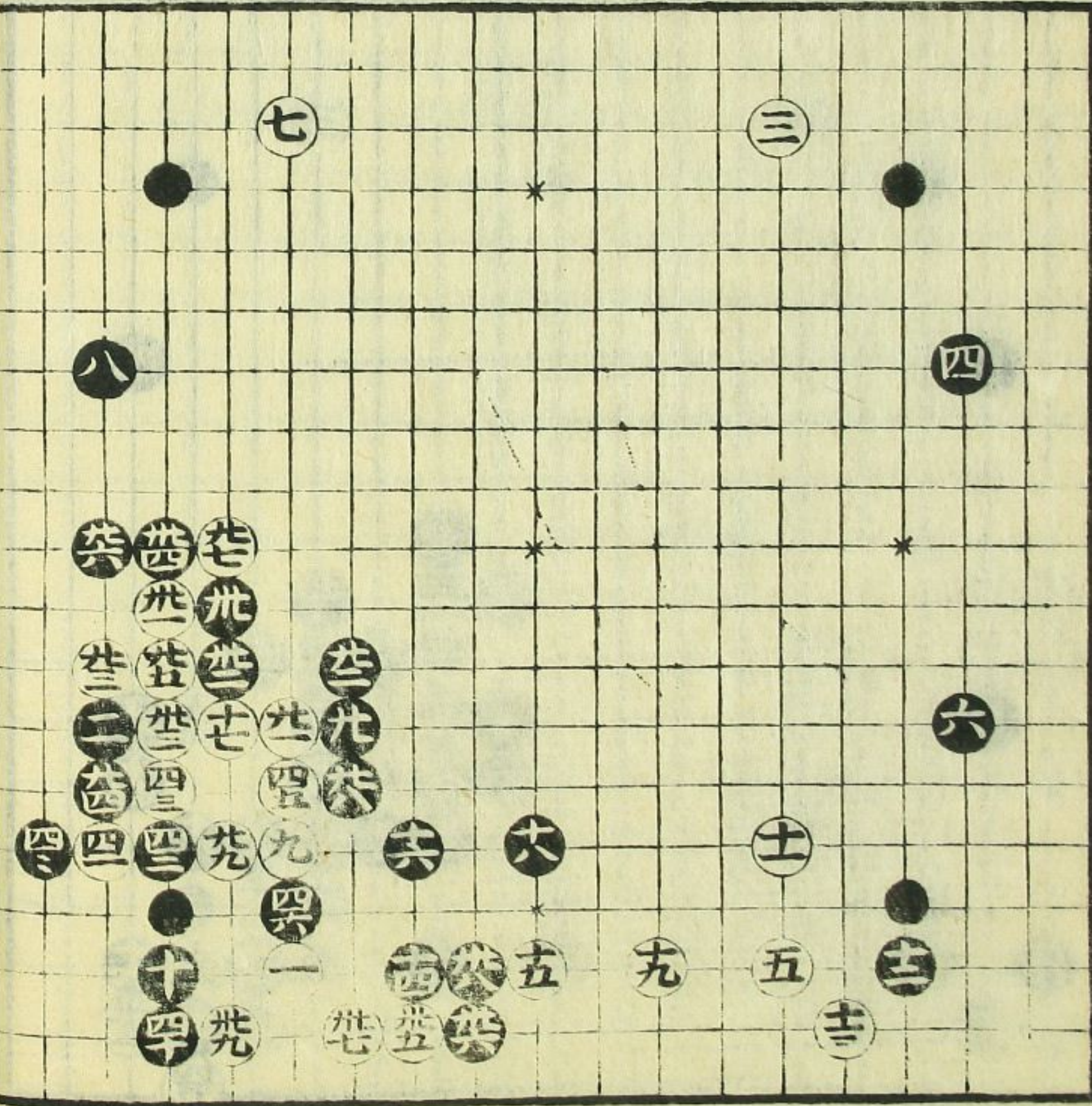
- 廿五 劫トル
- 廿七 目トル
- 廿四 目トル
- 四十 目トル
- 四三 目トル





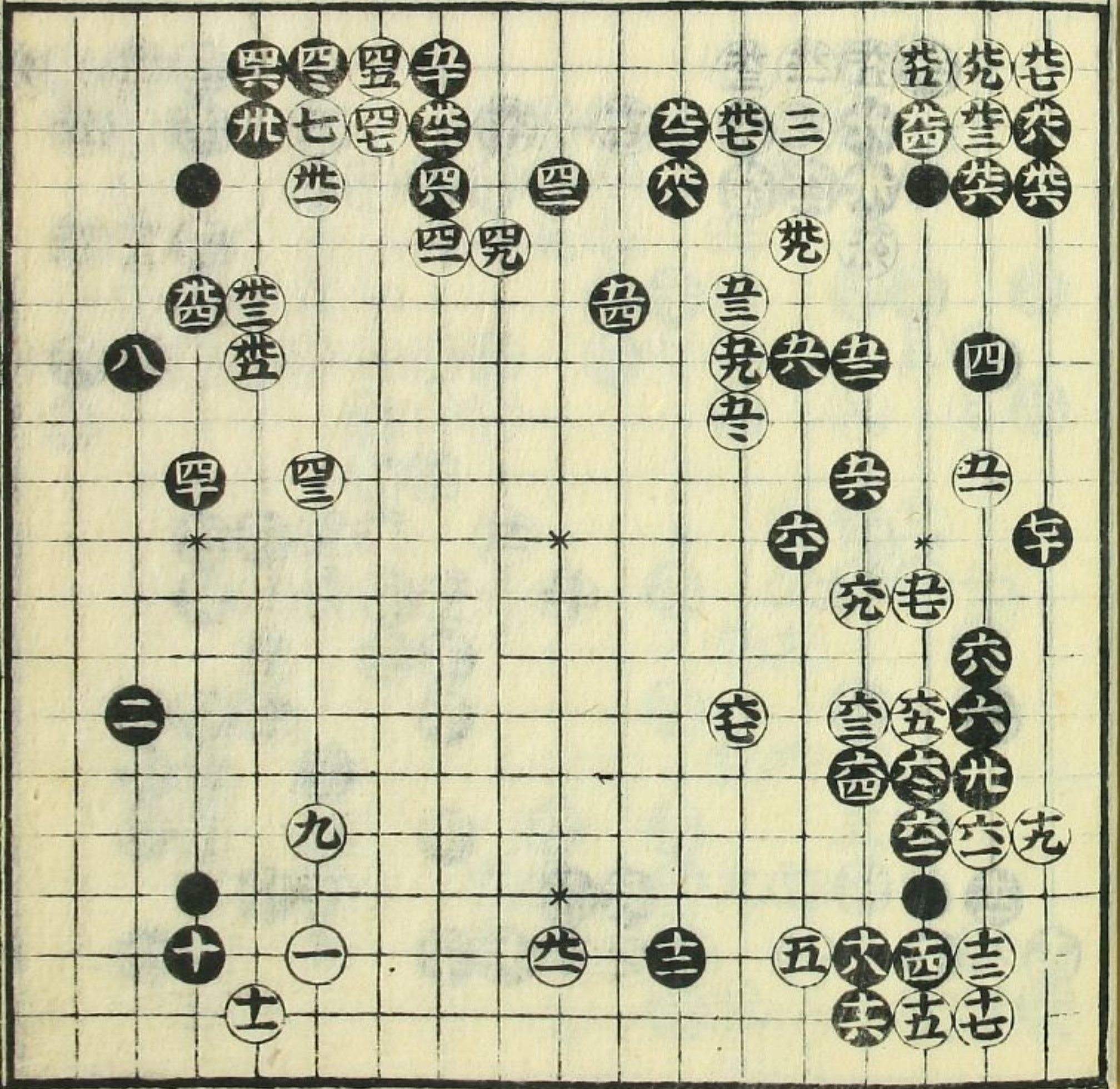
四十六

此不立黒の傍也  
事較多明な也  
此と云はるる者  
白の傍に一知と云  
る一必る教並  
うは素白は  
一所多うと云



七十

此不立白の傍也  
事較多明な也  
此と云はるる者  
白の傍に一知と云  
る一必る教並  
うは素白は  
一所多うと云



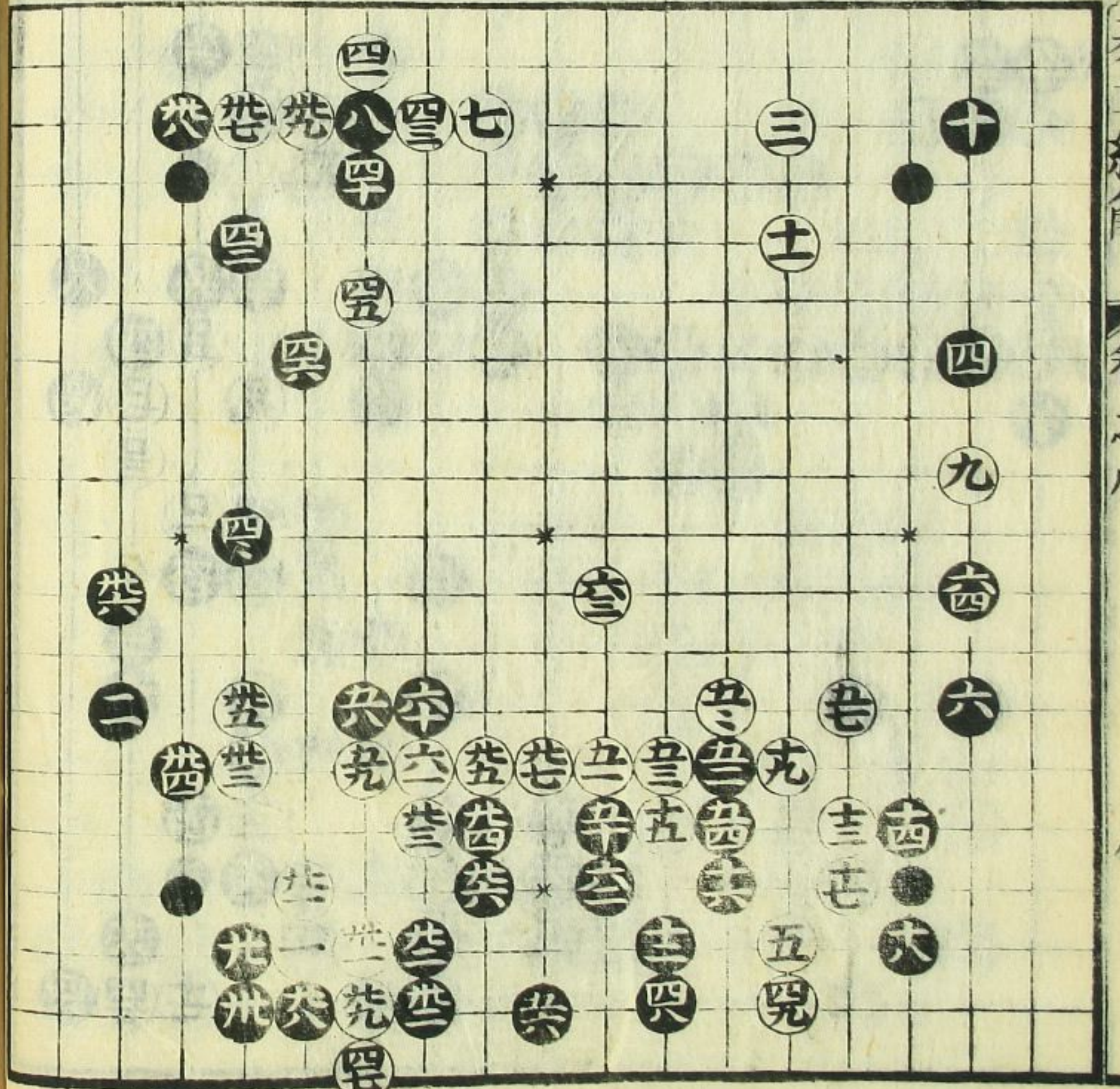






六十四子

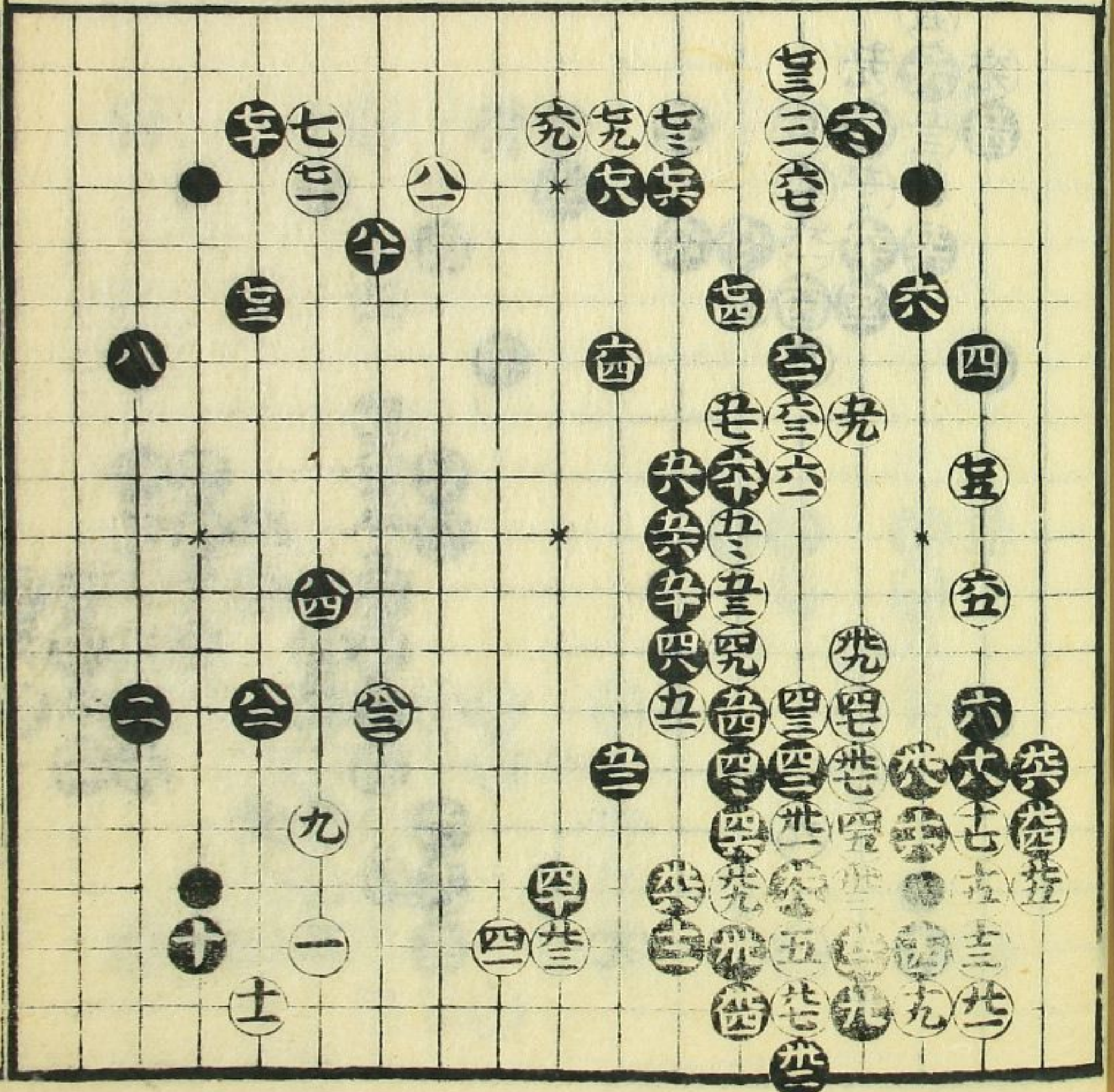
此五子地小行... 可位... 亦... 此... 又... 安... 位...



八十四子

此五子地小行... 可位... 亦... 此... 又... 安... 位...

卅五粘

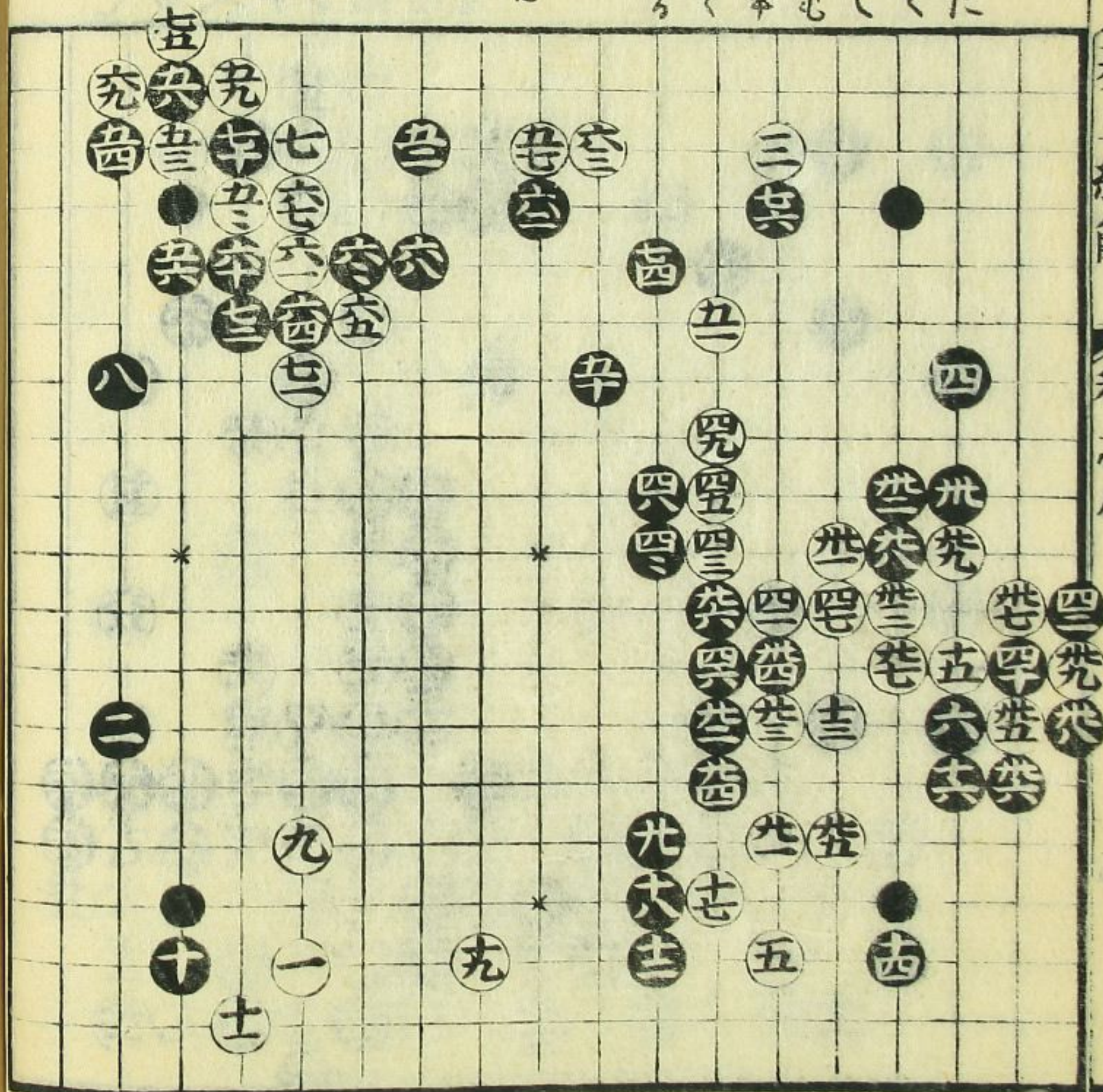




七十六と

此の五白の夜に  
黒の方ハ勝れ事  
打たれしむりて  
答ははくせりて  
黒の方ハ勝れ事  
打たれしむりて  
答ははくせりて  
黒の方ハ勝れ事  
打たれしむりて  
答ははくせりて

七二却上



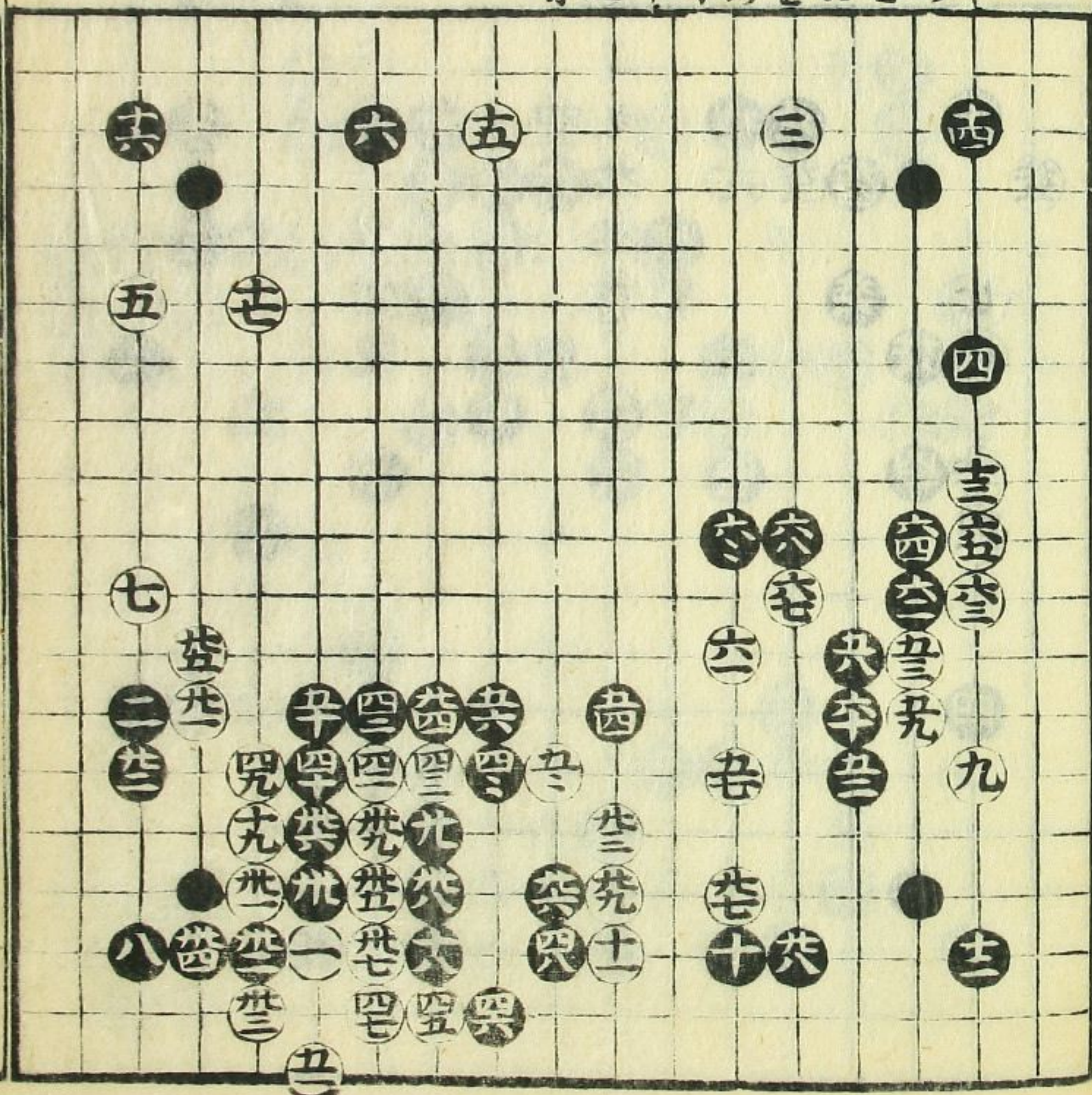
碁立細節

卷之八

九

六十八と

此の五黒細く  
て位をきく故乃  
望見小勝れ事と  
以て對接す所の  
大とくに勝れ事と  
石をゆく地をき  
て其の附ハ白勝れ  
にありしむりて  
あひを見合す  
事黒の石より有  
るよりなり



碁立細節

卷之八

九

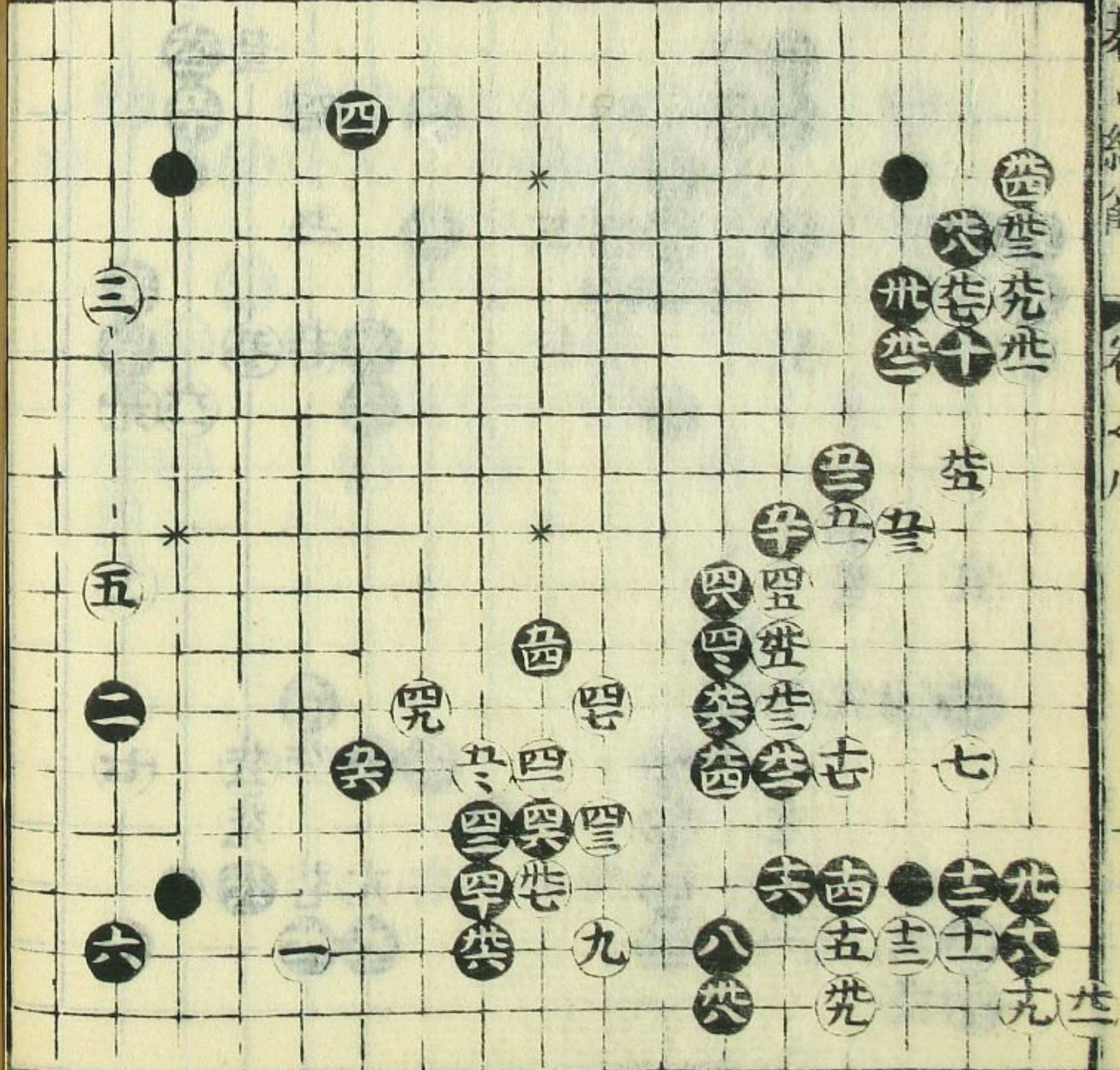






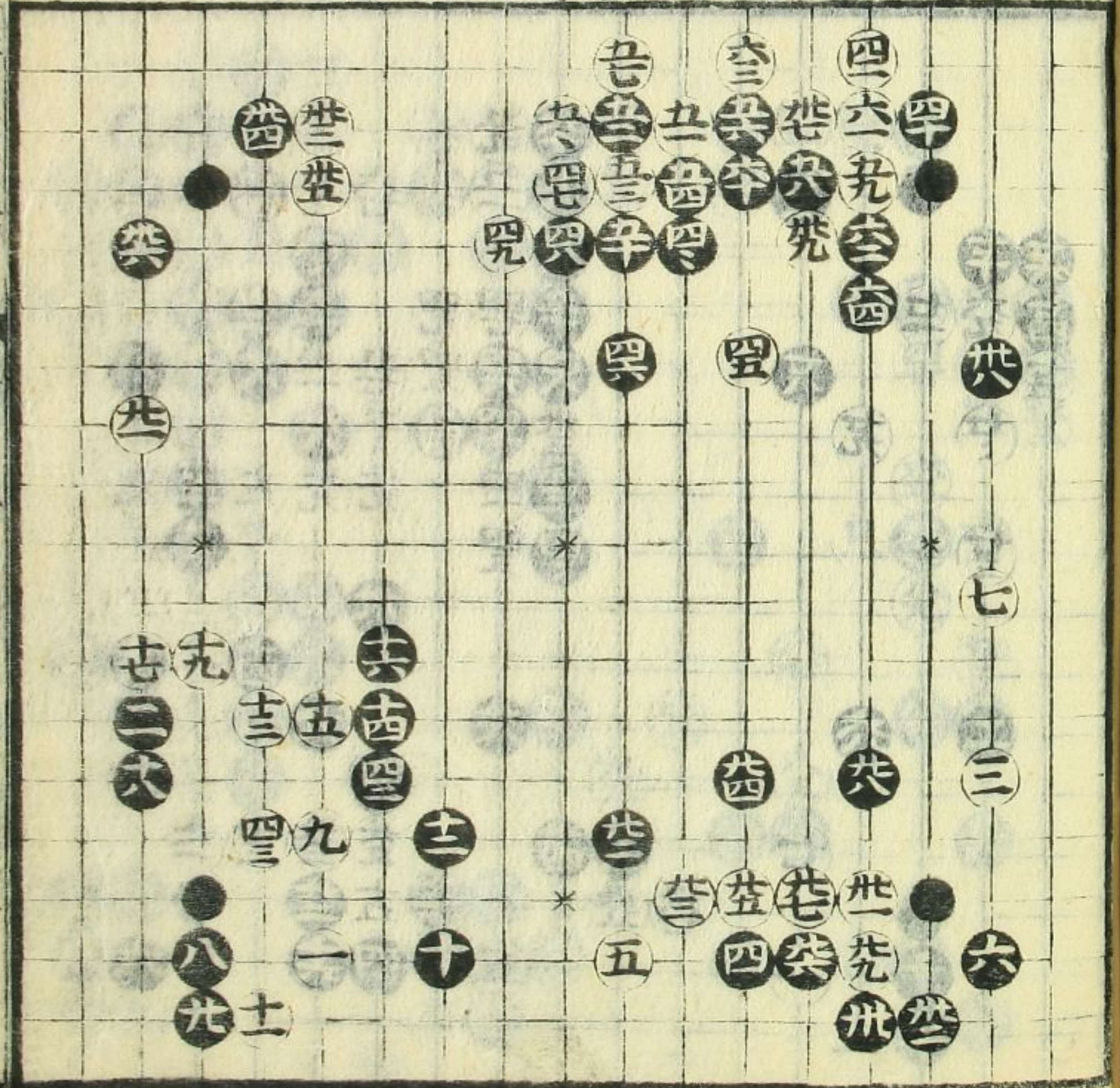
五十六のこ

此石立も白のく合  
打虫事を知り  
形のこくく白透同  
りれ附早く石立  
やく捕下し押し  
り飛移おもるる又  
ゆめ守岩さかふ  
てはらけ我る危く  
りく妙して白の  
透同小法くくく  
又我知をまじりか  
りし此石立もく  
かを初るなり



六十四のこ

此石立も白のく  
さ同く法くあらし  
む白小ゆきさす  
しりく又此の合  
法さ附ハ初のこく  
白の方ハ法さあらし  
四の白の附さま  
え小さつう有る  
ののこくくゆきさ  
小ゆき此石立も  
あらし



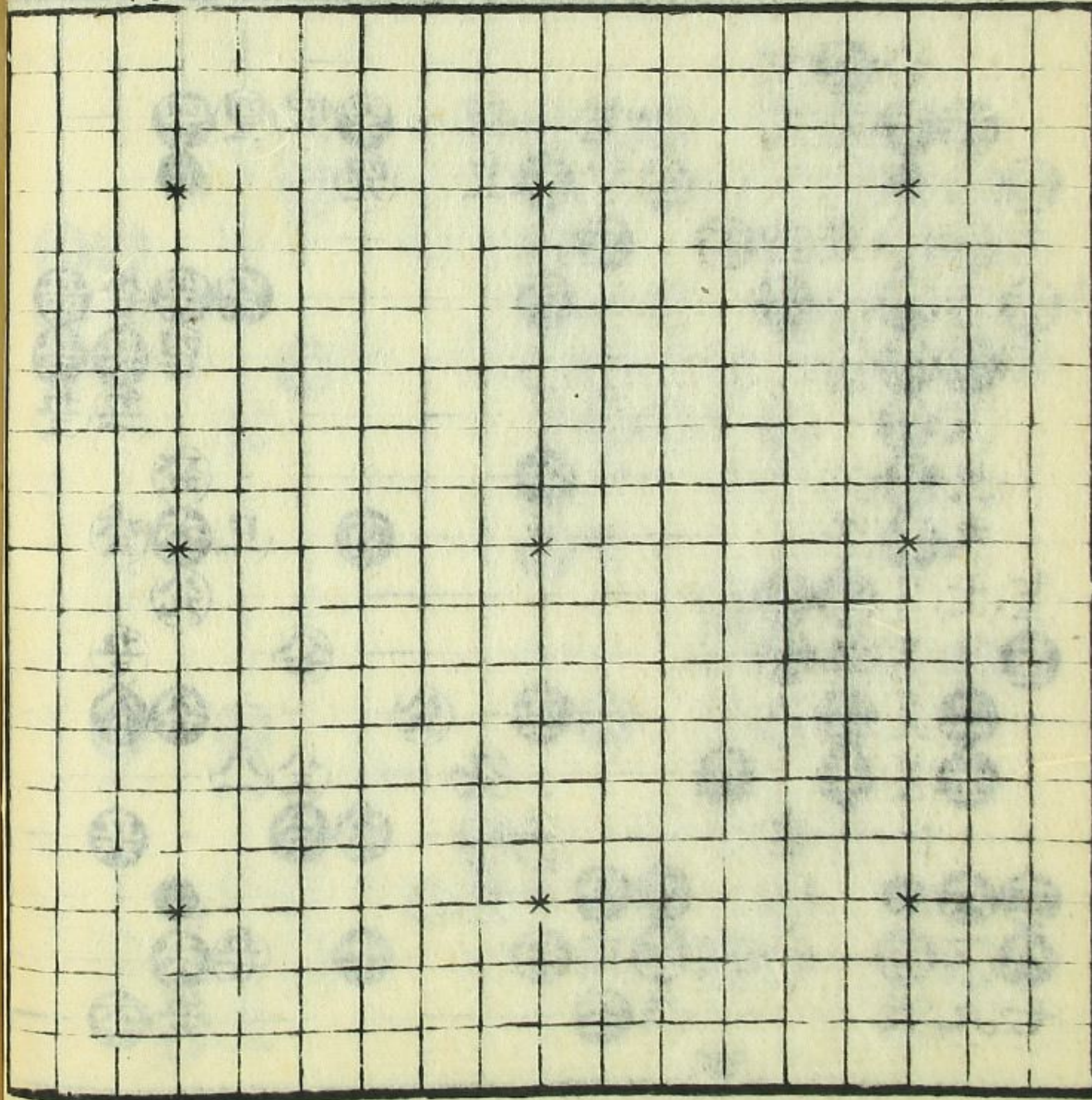
書公肩帝  
卷之八







君立胡節全章



校刻琴瑟編師跋

事又零兩小不為。情或即極而出  
又再遣七取全取。搜敵道亦得某  
徑指節撥卷讀之。寫此亦為不  
少是於乞亦攬筆。點繫不圖道  
強筆焉。下有印字。見之。又



刻書之人也。字宜稱華。實之  
所鑿之書。大士也。而作曰。於戲。此  
書也。此勝以傳久。其陸然。亦能  
其多。以何。幸矣哉。吾子。以此  
校。年業。公請。未。多。後。曰。我。以。其  
意。且。氣。小。也。多。有。速。作者。之

豈為耶。去。燕。說。而。延。大。方。之。以。主  
人。疆。之。再。四。遂。亦。已。以。答。見。是  
正。卒。較。往。多。以。在。求。小。也。功  
學。而。觀。其。一。斑。乎。接。以。新。亦。以。而  
誰。呵。

山音



天明七年正月朔十八日

吐屑奄少貴物乞



*Faint bleed-through text from the reverse side of the page.*

天明七丁未年閏鑄

京都寺町通松原下

勝村治右衛門

大坂順慶町五丁目

柏原屋與左衛門

江戸下谷池之端竹町

高橋與惣次

同所

須有屋伊八

賣弘所



